

2024年11月4日 (月曜日)

文化
學問

大切なのは、発達の主体はその人自身だということ。障害の有無にかかわらず、発達はその子が持っている権利で、親も教師も肩代わりできません。「今この発達段階だから次へ向かわせよう」とする考え方とは違う、新しい自分になろうとする本人の願いを大事にし、保障していく。そんな社会が求められていると思っています」（恵理子さん）

「発達のなかの癒め」を出版した白石正久さん、白石恵理子さんは、長年、大学で教壇に立ち、発達診断や発達相談にも携わってきました。新著に込めた思いを聞きました。(中村尚代)

(中村尚代)

発達の権利をすべての人へ “新しい自分”への願い大切



菌部英夫撮影

白石 恵理子さん

しらいし・えりこ
1960年生まれ。滋賀大学教授



白石 正久さん
しらいし・まさひさ
1957年生まれ。龍谷大学名誉教授

『発達のなかの煌めき』(上)

題名に選んだ「煌めき」の言葉には、社会発展への思いが込められています。

視座をうつす

全国障害者問題
研究会出版部

題名に選んだ「煌めき」の言葉には、社会発展への思いが込められています。【『煌めき』は、私たちの視座をつつす】

さん（故人、京都大学名誉教授）が使われた言葉であります。瞳のかすかな光にも意味があり、少しの指の動きも大いなる自然の儀みの中にある（惠理子さん）、「一人の中にある発達の煌めきが大切にされて、人が集つた社会や団体の中の煌めきとなり、その煌めきによって新しい社会をつくり出していく。行方を指示す光が生まれるという意味もあると思います」（正久さん）本書には、重度の障害の人（人）から

は、発達段階とライフステージの両方を視野に入れる必要がある」と話します。本書では、知的障害者施設に10歳で入所し、86歳で亡くなるまで暮らした女性の晩年を紹介。老いや死に不安を見せ、手の震えも増え、怖い夢を見るようになつた女性に、職員は「怖い夢を見ないようお願いの手紙を書いたら？」と本人が添います。（張貞京著）高齢期を生きる障害のある

さん（故人、京都大学名誉教授）が使われた言葉であります。瞳のかすかな光にも意味があり、少しの指の動きも大いなる自然の営みの中にある（恵理子さん）

「一人の中にある発達の煌めきが大切にされ、人が集つ社会や団体の中の煌めきとなり、その煌めきによって新しい社会をつくり出していく。行方を指示する光が生まれるという意味もあると思います」（正久さん）

本書には、重度の障害のある人の学びや家族との生活、成人期の労働など多くの実践が紹介され、「視座をうつす」という言葉が繰り返し登場します。

「視点」と言い換えてみると、ある人の学びや家族との生活、成人期の労働など多くの実践が紹介され、「視座をうつす」という言葉が繰り返し登場します。

「視点」と言い換えてみると、理解し、力を合わせることもできます」（正久さん）

「視座をうつして、子どもや障害のある人が何に心を動かし、何を願い、何とたたかっているか、想像力を働かせます。何度も聞いて直して「本当の要求は何か」をどうもに探っていくんですね」（恵理子さん）

本書には、重度の障害のある人の学びや家族との生活、成人期の労働など多くの実践が紹介され、「視座をうつす」という言葉が繰り返し登場します。

「視点」と言い換えてみると、理解し、力を合わせることもできます」（正久さん）

「視座をうつして、子どもや障害のある人が何に心を動かし、何を願い、何とたたかっているか、想像力を働かせます。何度も聞いて直して「本当の要求は何か」をどうもに探っていくんですね」（恵理子さん）

本書では、知的障害者施設で見せ、手の震えも増えて、怖い夢を見るようになってしまった女性に、職員は「怖い夢を見ないようお願いの手紙を書いたら？」と本人が不安と向き合えるよう寄り添います。（張貞京著『高齢期を生きる障害のある人』から）

「障害のある人が、老いや死を受け止めようとするとき、そばで応援する人がいることがすごいなと。自分が主人公を貰いたいですね」（恵理子さん）

発達は、いくつかの節目を乗り越えていくようなものだと正久さん。「新しい自分への願いを大切にする日々を重ねると、それは飛躍への準備となります」

大学を卒業してすぐ、恵理子さんは大津市で、正久さんは病院の小児科で発達相談員になりました。

「人生経験も少ない私たちのような若い発達相談員を受け入れてくれた子どもたちと親御さんへの感謝を